

11/25_(水)
開催



RICeD

Research Institute for
Cell Design Medical Science

— 所内 **SEMINAR** —

細胞デザイン医科学研究所
**医・獣トランスレーショナル
臨床研究部門**

2026年11月25日(水) 17時～18時

場所：吉田キャンパス
iCOVER101

ハイブリッド開催



Zoom

ミーティングID：873 2540 7447

パスワード：261125



岡本 士毅 准教授
(生体機能学講座)

甘党脳と酒好き脳の神経科学



【お問い合わせ】

山口大学細胞デザイン医科学研究所事務局

☎ 0836-85-3065



sh088@yamaguchi-u.ac.jp

ABSTRACT

食欲の秋、アルコールを楽しんだ後に炭水化物への渴望を感じたことはありませんか？ 飲酒に関わる健康障害は世界で少なくとも3億人を超えており、様々な医薬や依存症改善アプローチが実施されているものの未だ決定打がありません。酒好きのアルコール摂取量は肥満度と正相関し、胃を縮める減量・代謝改善手術を必要とする高度肥満患者はアルコール乱用障害の有病率が高いことが報告されています。しかし、アルコール過剰摂取が肥満の誘因となる科学的根拠は示されていません。また、大量のアルコールを頻回摂取する人は炭水化物よりも動物性脂肪を好みます。逆にアルコールに弱い人は甘味嗜好性が高い傾向があり、食嗜好性とアルコール嗜好性をつなぐ分子メカニズムが注目されます。アルコールを摂取すると、主に肝臓においてアセトアルデヒドから酢酸へ分解・解毒されますが、すぐにエネルギーに変換されるわけではありません。FDG-PETを用いたアルコール依存患者の脳におけるグルコース取り込み量は、健常人に比べて約20%も低下しており、飲酒時の脳は絶食時に類似したエネルギー飢餓状態にあると考えられます。私は絶食後の炭水化物嗜好性の増強を司る嗜好性制御神経がマウス視床下部室傍核 (PVH) に存在するコルチコトロピン放出ホルモン(CRH)陽性神経であることを見出し、細胞のエネルギーレベルを感知するAMPキナーゼの活性化を介してエネルギー飢餓からの脱却に寄与すると考えています。本セミナーでは、アルコール嗜好性が高いマウスにおける食嗜好性制御に関わる分子群の機能的変化に焦点を当て、アルコールと動物性脂肪に対する依存的行動嗜癖の脳内メカニズムクロストークの可能性を考察します。